

令和5年度

# 事業報告



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

石川県支部





## ご あ い さ つ

日本赤十字社石川県支部

支部長 馳 浩

赤十字活動の推進につきましては、平素より県民の皆様及び地区・分区はじめ関係の皆様から深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

元旦に発生した令和6年能登半島地震は、輪島市、志賀町で県内観測史上最大の震度7を記録するなど本県における未曾有の大災害となりました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様方に対して心からお見舞い申し上げます。また、上下水道、電気、通信といったライフラインの損傷や、のと里山海道、国道249号等の道路の崩壊、液状化現象の発生のほか、河川、港湾・漁港、農地・農業用施設など数多くのインフラ施設に極めて甚大な被害が発生いたしました。

日本赤十字社では、こうした被災状況に加えて、冬場という厳しい環境下で、災害救護活動を行ってまいりました。全国の赤十字支部の応援を受けて、医療救護やこころのケアなどの活動は延べ3,500人に達しており、救援物資も毛布16,000枚などいち早くお届けすることができております。

また、救護活動の資機材の整備、救援物資の備蓄、救急法講習会の開催など今後の備えも怠らず進めてまいりたいと考えております。

石川県支部では、地域課題の解決に向けて積極的に取り組み、より良い地域づくりに貢献するため、令和4年度よりプロジェクト「ACTION!4」を立ち上げ活動を行ってきました。この活動は、住民、企業、行政、赤十字の4者が緊密に連携しながら、4つの取り組み（人命救助、防災・減災、感染防止、無病息災）を行うもので、地域奉仕団が赤十字応援野菜を栽培し販売するなどの事業にも積極的にチャレンジしてきました。

また、日頃の備えとしての救急法や健康生活支援講習、幼児安全法等の普及、赤十字奉仕団の育成強化や青少年赤十字活動の推進のほか、海外赤十字社に対する支援活動等を実施いたしました。こうした国内外における赤十字事業の財源は、県民の皆様からお寄せいただく「社資」によって支えられております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

金沢赤十字病院では、令和6年能登半島地震で被災した傷病者の受け入れを積極的にを行い、災害拠点病院や地域における中核病院としての役割を果たしながら、安全で質の高い医療サービスを提供してきました。また、平時から地域に根差した最適な医療を提供するため、地域包括ケア病棟等を有効に活用し、地域医療連携強化、救急医療の充実を図ることにより、地域の幅広い医療ニーズに対応できるよう努めてきました。

赤十字血液センターにつきましても、国内献血による国内自給を基本理念とした安全で安心できる血液確保が求められており、災害発生時においても県民の皆様方の献血により、医療機関が必要とする輸血用血液を安定供給することができました。

今なお、多くの方々が地震の爪痕が残る中での生活を余儀なくされていますが、日本赤十字社としては、被災された方が安心して暮らせるよう、被災地に寄り添いながら、こころのケア、ボランティアといった活動などにも引き続き取り組んでまいります。

最後になりますが県民の皆様方におかれましては、今後とも赤十字事業に対しまして、温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

# 目 次

1	評議員会等の開催状況	1
(1)	評議員会	1
(2)	監査委員による監査	2
(3)	石川県日赤紺綬有功会総会	2
(4)	表彰式	3
2	社資収納状況調	4
(1)	令和5年度社資収納実績	4
(2)	社資収納額の推移（10年間）	4
(3)	令和5年度地区・分區別一般社資収納状況	5
(4)	令和5年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況	6
(5)	令和5年度納入会費額別会員（個人）数	7
(6)	令和5年度納入会費額別会員（法人）数	8
(7)	令和5年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数	8
3	義援金・海外救援金	9
(1)	義援金	9
(2)	海外救援金	9
(3)	日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」（海外救援金）	9
4	災害救護体制	10
(1)	救護班	10
(2)	救護要員用装具の保有状況	10
(3)	救護用資機材の保有状況	11
(4)	NBC災害用資機材	11
(5)	DMAT装備	12
(6)	地区・分区における救援車配備・整備状況	12
5	災害救護・救援活動及び訓練	13

(1) 災害救護・救援活動	13
(2) 防災訓練等への参加	14
(3) 救護員に対する研修	15
(4) 防災教育事業	15
6 救 援 物 資	16
7 その他救護活動	17
8 看 護 師 養 成	17
9 救急法・健康生活支援講習等の普及	18
(1) 講習会の開催状況（総括）	18
(2) 養成講習会等の開催状況	19
(3) 開催地別講習会開催状況	21
(4) 救急法等指導員在籍状況	22
(5) 指導員の研修等	22
10 赤 十 字 奉 仕 団	23
(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況	24
(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況	25
(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況	25
(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催	25
(5) 赤十字ボランティア研修会の開催	25
(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動	25
(7) 奉仕団員による災害復旧支援活動	26
(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』	27
11 青 少 年 赤 十 字	28
(1) 青少年赤十字の加盟校（園）の状況	28
(2) 指導体制の充実・強化	29
(3) メンバーの活動状況	30
(4) 国際理解・親善活動	30
(5) ボランティア活動	30

(6) 普及活動	30
(7) 指導用教材資料の貸し出し	30
12 国際活動	31
13 医療事業	32
(1) 患者数	33
(2) 診療科別患者数	33
(3) 診療単価等	33
14 医療・保健等の社会事業	34
15 血液事業	34
(1) 安全な血液製剤の安定供給	34
(2) 献血者の安定的確保	35
(3) 効率的な事業運営	36
(4) 持続可能な血液事業（事業の活性化）の推進	37
(5) 造血幹細胞事業の推進	37
(6) 献血・血液製剤供給状況等（令和5年度）	38
16 決算状況	40
(1) 令和5年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書	40
(2) 令和5年度医療施設特別会計歳入歳出決算書	41
17 日本赤十字社石川県支部役員名簿	42

# 1 評議員会等の開催状況

令和5年度における評議員会等の開催状況は、次のとおりである。

## (1) 評議員会

### 第1回評議員会

期 日 令和5年6月8日(木)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 12名

議 事

- ・議案第1号

令和4年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出決算等の承認について

### 第2回評議員会

期 日 令和6年2月5日(月)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 7名

議 事

- ・議案第1号

令和5年度 一特別会計 歳入歳出補正予算(案)について

- ・議案第2号

令和6年度 事業計画(案)及び地区分區別社資目標額(案)について

- ・議案第3号

令和6年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出予算(案)について

- ・議案第4号

役員改選(案)について

令和6年2月20日で任期満了となる監査委員の岸弘市氏と高澤良英氏が再任された。

(2) 監査委員による監査

期 日 令和5年6月1日(木)

会 場 日本赤十字社石川県支部 講習室

出席監査委員 岸 弘市 氏、高澤 良英 氏

日本赤十字社石川県支部一般会計、金沢赤十字病院特別会計の令和4年度歳入歳出決算及び石川県赤十字血液センターの業務に係る監査が実施され、いずれも適正であると認定された。

(3) 石川県日赤紺綬有功会総会

期 日 令和5年10月31日(火)

会 場 ANAクラウンプラザホテル金沢

出席会員 29名

議 事

- ・令和4年度石川県日赤紺綬有功会事業報告及び収支決算の承認について
- ・令和5年度石川県日赤紺綬有功会事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について

その他

- ・赤十字活動の近況報告
  - ・能・狂言の紹介及び実演
- 金沢能楽会 常務理事  
狂言方 和泉流 能村昌人氏



石川県日赤紺綬有功会総会



能・狂言の紹介

(4) 表彰式

期 日 令和5年9月7日(木)

会 場 石川県庁行政庁舎 4階 特別会議室

表 彰

日本赤十字社金色有功章

個人5名、法人1社

日本赤十字社銀色有功章

個人0名、法人4社

日本赤十字社社長感謝状

個人4名、法人5社

石川県支部長感謝状

個人1名、法人1社、5地区分区

厚生労働大臣感謝状

個人2名

紺綬褒章

法人1社



金色有功章伝達式



記念写真

## 2 社資収納状況調

### (1) 令和5年度社資収納実績

区 分		令 和 5 年 度			令和4年度 実績額(B)	増減額 (A)-(B)
		目標額	実績額(A)	達成率		
一般社資	地区分区扱	千円 134,006	千円 106,105	% 79.2	千円 111,009	千円 -4,904
	支部直扱	11,994	75,778	631.8	42,687	33,091
	計	146,000	181,883	124.6	153,696	28,187
法人社資		12,000	23,168	193.1	19,084	4,084
計		158,000	205,051	129.8	172,780	32,271

### (2) 社資収納額の推移(10年間)

年 度	一 般 社 資		法 人 社 資		計	
	金 額	前年度比	金 額	前年度比	金 額	前年度比
平成26年度	千円 138,925	% 98.9	千円 10,088	% 104.5	千円 149,013	% 99.2
27	151,140	108.8	11,747	116.4	162,887	109.3
28	142,579	94.3	12,079	102.8	154,658	94.9
29	136,398	95.7	10,823	89.6	147,221	95.2
30	137,373	100.7	10,137	93.7	147,510	100.2
令和元年度	146,615	106.7	12,798	126.3	159,413	108.1
2	172,876	117.9	14,762	115.3	187,638	117.7
3	147,851	85.5	23,802	161.2	171,653	91.5
4	153,696	104.0	19,084	80.2	172,780	100.7
5	181,883	118.3	23,168	121.4	205,051	118.7

## (3) 令和5年度地区・分區別一般社資収納状況

地区・分區	目標額	実績額	達成率	前年度比
金 沢 市	51,401,000 <sup>円</sup>	34,775,884 <sup>円</sup>	67.7 <sup>%</sup>	93.8 <sup>%</sup>
七 尾 市	7,073,000	6,090,972	86.1	98.6
小 松 市	11,634,000	9,817,865	84.4	101.8
輪 島 市	3,724,000	2,638,900	70.9	74.3
珠 洲 市	1,685,000	1,316,682	78.1	99.6
加 賀 市	7,283,000	5,242,626	72.0	100.6
羽 咋 市	2,795,000	2,560,020	91.6	102.0
か ほ く 市	4,295,000	4,177,176	97.3	97.0
白 山 市	11,990,000	10,005,416	83.4	98.1
能 美 市	5,466,000	5,054,560	92.5	82.7
野 々 市 市	6,906,000	7,399,236	107.1	100.3
川 北 町	578,000	576,900	99.8	95.6
津 幡 町	5,209,000	4,625,678	88.8	100.3
内 灘 町	3,188,000	2,685,649	84.2	98.6
志 賀 町	3,437,000	2,154,850	62.7	88.6
宝 達 志 水 町	1,594,000	1,402,646	88.0	97.4
中 能 登 町	2,092,000	2,102,000	100.5	99.7
穴 水 町	1,155,000	1,165,500	100.9	94.4
能 登 町	2,501,000	2,312,280	92.5	98.3
合 計	134,006,000	106,104,840	79.2	95.6

## (4) 令和5年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況

分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比	分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比
野 町	790,000	643,478	81.5	136.0	三 和	909,000	714,278	78.6	97.3
弥 生	888,000	504,133	56.8	86.5	三 馬	1,280,000	500,674	39.1	75.9
中 村 町	933,000	531,735	57.0	100.6	米 泉	731,000	552,036	75.5	91.4
十 一 屋	712,000	458,048	64.3	94.5	富 樫	885,000	387,853	43.8	92.6
泉 野	1,588,000	1,474,300	92.8	99.6	伏 見 台	1,135,000	513,650	45.3	83.0
長 坂 台	881,000	575,970	65.4	96.1	額	878,000	537,852	61.3	97.0
新 豎 町	936,000	376,800	40.3	85.2	四 十 万	471,000	226,314	48.0	93.7
菊 川	1,072,000	764,940	71.4	91.4	扇 台	1,056,000	891,829	84.5	91.8
材 木 町	1,257,000	675,995	53.8	102.9	長 田 町	713,000	442,690	62.1	95.1
味噌蔵町	1,127,000	564,513	50.1	80.9	戸 板	963,000	705,095	73.2	98.3
長 町	332,000	249,500	75.2	88.5	西	531,000	411,019	77.4	99.0
松ヶ枝	418,000	368,300	88.1	84.4	二 塚	850,000	552,685	65.0	89.1
長 土 塀	715,000	573,311	80.2	86.3	安 原	782,000	502,150	64.2	98.8
芳 斉	449,000	320,660	71.4	89.8	大 徳	2,556,000	1,367,480	53.5	88.2
此 花	282,000	226,400	80.3	93.0	金 石 町	1,259,000	888,652	70.6	98.0
瓢 箪	611,000	443,472	72.6	96.2	大 野 町	364,000	248,831	68.4	88.3
馬 場	581,000	498,917	85.9	93.8	小 立 野	1,290,000	1,000,705	77.6	90.6
浅 野 町	702,000	332,855	47.4	79.5	崎 浦	2,220,000	1,561,052	70.3	88.3
森 山	1,303,000	838,052	64.3	98.1	内 川	115,000	104,510	90.9	104.1
小 坂	1,643,000	1,306,346	79.5	97.0	犀 川	468,000	246,650	52.7	90.4
千 坂	1,270,000	969,899	76.4	101.2	湯 涌	143,000	191,620	134.0	114.5
夕 日 寺	657,000	570,897	86.9	98.6	田 上	993,000	640,640	64.5	102.1
諸 江	1,434,000	721,773	50.3	86.9	東 浅 川	101,000	102,000	101.0	100.0
浅 野 川	541,000	343,445	63.5	86.3	俵	46,000	58,800	127.8	100.5
鞍 月	761,000	668,220	87.8	101.0	医 王 山	96,000	109,900	114.5	104.0
粟 崎	637,000	568,351	89.2	92.2	森 本	657,000	472,475	71.9	117.7
川 北	341,000	242,049	71.0	101.5	花 園	375,000	239,905	64.0	96.3
大 浦	920,000	490,738	53.3	83.5	湖 南	689,000	550,000	79.8	100.0
米 丸	1,656,000	992,220	59.9	88.2	薬 師 谷	368,000	287,565	78.1	111.3
新 神 田	590,000	478,913	81.2	97.9	三 谷	217,000	199,600	92.0	91.8
押 野	1,254,000	1,077,910	86.0	94.5	市 直 扱	0	51,690	0.0	51.7
西 南 部	979,000	663,544	67.8	91.4	金 沢 計	51,401,000	34,775,884	67.7	93.8

## (5) 令和5年度納入会費額別会員(個人)数

地区区分名	2千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
金 沢 市	987	146	46	13	1	0	1	0	0	1194
七 尾 市	5	1	6	26	1	2	0	0	0	41
小 松 市	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
輪 島 市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
珠 洲 市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
加 賀 市	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
羽 咋 市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
かほく市	42	9	4	6	0	0	0	0	0	61
白 山 市	19	6	5	23	0	0	0	0	0	53
能 美 市	13	1	1	3	0	0	0	0	0	18
野々市市	8	1	1	0	0	0	0	0	0	10
川 北 町	0	1	0	5	0	0	0	0	0	6
津 幡 町	30	1	2	0	0	0	0	0	0	33
内 灘 町	26	0	4	0	0	0	0	0	0	30
志 賀 町	44	12	5	4	0	0	0	0	0	65
宝達志水町	11	1	2	0	0	0	0	0	0	14
中能登町	16	2	1	2	0	0	0	0	0	21
穴 水 町	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
能 登 町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
地区分区計	1204	182	78	88	2	3	1	0	0	1558
支部直扱	801	338	401	169	60	31	19	2	5	1826
個人合計	2005	520	479	257	62	34	20	2	5	3384

(6) 令和5年度納入会費額別会員(法人)数

	2千円 以上	5千円 以上	1万円 以上	2万円 以上	5万円 以上	10万円 以上	20万円 以上	50万円 以上	100万円 以上	人 数
法 人	66	54	73	233	25	25	8	1	5	490

(7) 令和5年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数

表 彰 区 分	功 労 区 分	個 人	法 人	地区分区	計
紺 綬 褒 章	社 資 功 労	1			1
厚生労働大臣感謝状	社 資 功 労	2			2
日本赤十字社社長感謝状	社 資 功 労	8	9		17
金 色 有 功 章	社 資 功 労	8	2		10
	業 務 功 労				0
銀 色 有 功 章	社 資 功 労	4	4		8
	業 務 功 労				0
支 部 長 感 謝 状	社 資 功 労	7	1	12	20
総 計		30	16	12	58

### 3 義援金・海外救援金

国の内外において発生した災害等による被災者に対し、県民から寄せられた義援金等の受付状況は次のとおりである。

なお、(1)義援金のうち、「令和5年5月能登地方地震災害義援金」「令和5年7月7日からの大雨災害義援金」「令和6年能登半島地震災害義援金」については、全国の赤十字から寄せられた合計額である。

#### (1) 義 援 金

災 害 等 名	件 数	金 額
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	2 件	3,621 円
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	3 件	4,829 円
令和5年台風第6号災害義援金	2 件	5,364 円
令和5年台風第13号災害義援金	1 件	19 円
計	8 件	13,833 円

災 害 等 名	件 数	金 額
令和5年5月能登地方地震災害義援金	182 件	141,862,367 円
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	68 件	12,292,025 円
令和6年能登半島地震災害義援金	21,419 件	34,162,471,773 円
計	21,669 件	34,316,626,165 円

#### (2) 海外救援金

災 害 等 名	件 数	金 額
無 指 定 海 外 救 援 金	1 件	10,146 円
アフガニスタン人道危機救援金	3 件	354 円
ウクライナ人道危機救援金	14 件	303,482 円
2023年トルコ・シリア地震救援金	42 件	3,877,233 円
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	2 件	12,000 円
2023年モロッコ地震救援金	6 件	124,741 円
2023年リビア洪水救援金	1 件	14,534 円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	3 件	14,801 円
計	72 件	4,357,291 円

#### (3) 日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」(海外救援金)

災 害 等 名	件 数	金 額
N H K 海 外 た す け あ い	430 件	969,994 円

義援金・海外救援金合計 34,321,967,283 円

## 4 災 害 救 護 体 制

### (1) 救 護 班

令和5年度における救護要員の登録状況は次のとおりである。

災害対策本部要員	39人
救 護 班 要 員	53人
血液供給要員	18人
特殊救護員	5人
計	115人

救護班は8個班編成することとしている。

#### 救護班の標準編成基準

医 師	看護師長	看 護 師	主 事	計
1 人	1 人	2 人	2 人	6 人

(注) 編成については、救護業務の状況に応じ個々の基準人員を増減し、また、必要に応じ薬剤師、助産師、特殊救護員を加える。

#### 救護班要員53人の内訳

職 種	要 員 数
医 師	8 人
看 護 師 長	8
看 護 師	17
主 事	20

(金沢赤十字病院)

### (2) 救護要員用装具の保有状況

(令和6年3月末現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
作業衣(帽子・バンド含む)	112 着	ヘルメット	37 個
雨 衣	56 着	ヘッドライト	20 個
防 寒 具	34 着	寝 袋 ( シ ュ ラ フ )	12 枚
作 業 靴	32 足	防災ボランティア用夜光反射ベスト	80 着
夜 光 反 射 ベ ス ト	56 着	防災ボランティア用ヘルメット	80 個

## (3) 救護用資機材の保有状況

(令和6年3月末現在)

整備区分	整備数	管 理 者				整備区分	整備数	管理者			
		支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区			支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区
業務無線基地局	2局	2				投 光 機	14基	14			
業務無線車載局	31局	12	3	16		簡易ベッド	165基	24	100		41
業務無線携帯局	23局	23				担 架	63基	12	10		41
アマ無線局	4局	4				簡易処置台	13台	5	8		
救 急 車	1台		1			医療セット	3組	1	2		
救 援 車	32台	4			28(1)	携帯型医療セット	2組	2			
連 絡 車	8台	1	1	6		浄 水 器	4機	1	3		
採 血 車	3台			3		簡易トイレ	12器	12			
採血検査車	3台			3		ツルハシ	2本	2			
血液輸送車	8台			8		ス コ ッ プ	4本	4			
資材輸送車	2台			2		レスキューボード	3機	3			
車両搭載用救急セット	39組	4			35	バックボード	1個	1			
救護用エアテント	3張	3				シュノーケル	10個	10			
救護テント	196張	11			185	マ ス ク	10個	10			
奉仕団テント	52張				52	フ ィ ン	10個	10			
発 電 機	9基	9									

(注) ( ) は、令和2年度に新規購入又は更新した数量で内書き。

## (4) NBC災害用資機材

(N : Nuclear 「核」、B : Biological 「生物」、C : Chemical 「化学」)

品 目	数 量	品 目	数 量
除 染 テ ン ト	1	防 護 マ ス ク	12
防 護 服 セ ッ ト	12	除 染 済 者 セ ッ ト	50
A E D	2		

## (5) DMAT装備

(DMAT : Disaster Medical Assistance Team)

品 目	数 量	品 目	数 量
ポータブル人工呼吸器	1	輸液ポンプ	1
ポータブル吸引器	1	簡易型心電図モニター	1

## (6) 地区・分区における救援車配備・整備状況

(令和6年3月現在)

配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)	配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)
七 尾 市	R 4. 1.11	ワゴン	川 北 町	H17. 5.26	ワゴン
小 松 市	H23. 9.14	ライトバン	野々市市	H16. 7.29	ワゴン
	H29. 9.22	ワゴン	津 幡 町	H25. 9.19	ワゴン
輪 島 市	H25. 8.30	ワゴン	志 賀 町	H24. 9. 6	ワゴン
	H30. 9.18	ワゴン	宝達志水町	H14. 8.23	ワゴン
珠 洲 市	R 6. 2.20	ワゴン		H29. 8.24	ワゴン
加 賀 市	H22. 9.14	ワゴン	中 能 登 町	H23.11.14	ワゴン
羽 咋 市	H29. 2.17	ワゴン		R 5. 9.29	ワゴン
か ほ く 市	H26. 7.23	ワゴン	穴 水 町	R 3. 7.28	ワゴン
	R 1. 7.22	ワゴン	能 登 町	H28. 3.29	ワゴン
白 山 市	H15. 3.19	ワゴン	計	24台	
	R 2. 9. 4	ワゴン			
能 美 市	H19. 5.25	ワゴン			
	H28. 7.26	ワゴン			

(注) 平成10年度から市町又は地区・分区が取得(登録)する災害救援用車両に対し、取得費の(100万円限度)を助成している。

平成23年度より、助成額の上限を取得費の(70万円限度)に改定した。

## 5 災害救護・救援活動及び訓練

令和5年5月5日に発生した令和5年奥能登地震、7月12日の大雨による津幡町での被害において、防災ボランティアや各奉仕団が活動し、その情報収集にあたった。また、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、全国の赤十字施設の協力を得て、被災地での救護活動を行った。その他、各防災関係機関合同の防災訓練等への参加、救護班要員に対する研修を行なった。

### (1) 災害救護・救援活動

令和5年5月5日に能登地方で最大震度6強の地震が発生し、石川県支部では第二次救護体制をとり、職員1名を県保健医療福祉調整本部へ派遣し、被害状況や救援物資・医療救護のニーズについて情報収集を行った。被害が甚大な珠洲市において、6日から救援物資を届け、8日からは珠洲市生活サポート部会へ支部職員を赤十字リエゾンとして派遣し、石川県、珠洲市、被災地で活動しているNGOと連携し、被災地での本部支援活動を行った。9日からは、金沢赤十字病院と石川県支部からこころのケア班として看護師と主事を派遣し、被災者のこころのケアと被災地の保健師の業務のサポートを18日まで行った。

令和5年7月7日から大雨の影響により、7月12日津幡町で河川の氾濫などによる被害が発生。赤十字防災ボランティアリーダー1名が津幡町社会福祉協議会ボランティアセンター運営に参加し、8月までセンターの運営等に従事した。

令和6年1月1日に能登地方一帯で最大震度7の地震が発生、石川県支部では第三次救護体制をとり、日赤災害医療コーディネートチームと協働し、全国から派遣された救護班等を被災地(七尾市、志賀町、能登町、穴水町、輪島市、珠洲市)へ派遣し、医療救護、こころのケア活動を行った。救護班は被災地での避難所巡回と診療、診療所の運営を行い、こころのケアは被災者の訪問と同時に、支援者となる行政職員のリラクゼーションを行った。安全法奉仕団を中心に、発災直後から救援物資の搬送を行い、2~3月には避難所でのリラクゼーションのボランティア活動も行った。3月31日現在、救護班は延べ342班、日赤災害医療コーディネートチーム延べ119チーム、こころのケア班延べ35班、支部支援要員68名、赤十字ボランティア延べ1,688名が被災地で活動した。救援物資は、毛布16,005枚、安眠セット5,230セット、緊急セット2,224セットを避難所等に届けた。4月以降もこころのケア、ボランティア活動を継続している。



奥能登地震でのこころのケア班の活動の様子



津幡町ボランティアセンターの様子



能登半島地震 石川県支部災害対策本部の様子



能登半島地震 救護班による避難所での診療の様子



能登半島地震 テント救護所の様子



能登半島地震 ボランティアによる  
避難者へのリラクゼーション



能登半島地震 避難所に浄水装置を設置



能登半島地震 ボランティアによる救援物資の搬送

## (2)防災訓練等への参加

### ア 能登空港消火救難訓練

令和5年7月20日(木)、能登空港にて実施された標記訓練に、支部職員1名が参加し、航空機火災における救護訓練を実施した。

### イ 石川県原子力防災対策通信連絡演習

毎月第2水曜日に、北陸電力(株)志賀原子力発電所を発信元とし、次のルートで通報を伝達する「異常事態発生通報訓練」に参加し、医療救護班の初動体制の確保に備えた。

北陸電力(株)志賀原子力発電所 → 県危機対策課 → 県医療対策課 → 日赤県支部

#### ウ 石川県防災総合訓練

令和5年11月12日(日)能登町一円において実施された標記訓練に金沢赤十字病院DMAT1班、赤十字防災ボランティア4名が参加し、医療救護訓練とボランティアセンター運営訓練を実施した。

#### エ 日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練

令和5年11月17日(金)～18日(土)、愛知県にて開催された標記訓練について、支部職員4名、金沢赤十字病院医療救護班1班、石川県血液センター1名が参加。水害を想定し、愛知医療センター 名古屋第二病院での参集訓練、日赤愛知ロジスティックセンター瀬戸ターミナルにて宿泊訓練、赤十字豊田看護大学にて避難所アセスメント訓練を実施した。



第3ブロック支部合同災害救護訓練の様子

### (3) 救護員に対する研修

#### ア 事務職対象「救護員研修」の実施

災害時の救護業務を円滑かつ的確に遂行するため、事務系職員等に対して研修(全7回)を実施し、新たに4名を救護員として登録した。

### (4) 防災教育事業

#### ア 赤十字防災セミナーの開催

3つの地域奉仕団を対象にDIG(災害図上訓練)を実施し、JRC加盟校を対象にKAG(家具安全対策ゲーム)を実施。災害時の地域の課題や防災対策を検討する訓練を実施した。

## 6 救 援 物 資

地区・分区における救援物資の令和5年度中における被災者(火災等含む)に対する配布実績及び令和5年度末における保有数は次のとおりである。

地区分区	配布数			保有数			地区分区	配布数			保有数		
	毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット		毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット
七尾市	枚 800	セット	枚	枚 91	セット 20	枚 0	津幡町	枚 4	セット 1	枚	枚 10	セット 4	枚 0
小松市	200	30		5	0	0	内灘町				33	12	0
輪島市	3594	853		0	0	0	志賀町	950	102		0	11	0
珠洲市	3581	849		0	0	0	宝達志水町				80	1	0
加賀市				90	33	52	中能登町	190	184		0	24	0
羽咋市	194	183	3	60	3	1	穴水町	1835	243		0	18	0
かほく市				81	14	0	能登町	1160	90		0	0	0
白山市	20	6		235	44	52	金沢市	282	63		17	11	0
能美市	1			43	9	0	計	13211	2224	3	791	228	105
川北町				26	12	0	支部	/	/	/	718	6	862
野々市市				20	12	0	総計	13211	2224	3	1509	234	967



## 7 その他救護活動

県、市町等からの依頼により、各種イベント等の会場へ奉仕団員等を派遣し、事故の防止と救護活動を実施した。

行事名	期日	派遣延数
全日本競歩輪島大会	4月15日（土）～16日（日）	8名
石川県障害者スポーツ大会	5月27日（土）28日（日）6月3日（土）	7名
かなざわ百万石まつり	6月3日（土）	122名
石川県戦没者慰霊式	7月21日（金）	6名
野々市じょんからの里 マラソン大会	10月22日（日）	4名
金沢マラソン	10月3日（日）	78名
計		225名

## 8 看護師養成

金沢赤十字病院における医療救護班要員の中核となる看護師を確保するとともに、医療施設要員の充足を図るため、日本赤十字豊田看護大学生1人、金城大学(看護学部)生5人、合わせて6人に対し奨学金を支給した。

大学別学生数

大学名 \ 学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
日本赤十字豊田看護大学	— 人	— 人	— 人	1 人	1 人
石川県立看護大学	—	—	—	—	
金城大学（看護学部）	1	2	2	—	5
合 計					6

## 9 救急法・健康生活支援講習等の普及

新型コロナウイルス感染症の5類感染症に移行したことに伴い、従来の対面講習を主とし受講者全員に実技を実施してもらう講習形態に戻して講習会を開催した。引き続き配慮を行いできる限りの感染対策を講じて講習会を開催した。

### (1) 講習会の開催状況(総括)

		令和5年度			令和4年度			前年度比
		支部主催	その他	計	支部主催	その他	計	
救 急 法	基 礎	4回	14回	18回	13回	31回	44回	40.9%
	養 成	4	9	13	8	8	16	
	短 期	0	307	307	0	318	318	96.5
	オンライン	7	34	41	0	57	57	
健康生活支援講習	養 成	2	0	2	0	0	0	
	短 期	0	6	6	0	4	4	150.0
	オンライン	0	2	2	0	0	0	
幼 児 安 全 法	養 成	1	0	1	1	0	1	
	短 期	1	60	61	2	52	54	113.0
	オンライン	8	0	8	6	0	6	
水 上 安 全 法	養 成	1	0	1	0	0	0	
	短 期	0	4	4	0	2	2	200.0
雪 上 安 全 法	養 成	0	0	0	0	0	0	
	短 期	0	0	0	0	2	2	
合 計	基 礎	4	14	18	13	31	44	40.9
	養 成	8	9	17	9	8	17	
	短 期	1	377	378	2	380	382	99.0
	オンライン	15	36	51	6	57	63	
総 計		28	436	464	30	476	506	91.7



救急法講習



健康生活支援講習

## (2) 養成講習会等の開催状況

## 【救 急 法】

## 救急法基礎講習(4時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	6月10日	21人	21人
〃	8月5日	17	17
〃	9月2日	10	10
〃	11月23日	20	20
石川県自然解説員研究会	4月5日	14	14
石川県柔道整復師赤十字奉仕団	9月3日	20	20
赤十字森山奉仕団	9月24日	20	20
私立鵬学園高等学校	9月12日、19日、26日	29	29
石川県警察学校	10月2日、3日、4日	26	26
金沢学院大学附属高等学校	4月14日～7月14日	95	94
金沢福祉専門学校	12月6日	14	14
第一電機工業協力会	9月23日	10	10
〃	9月30日	14	14
金沢赤十字病院	10月23日	24	24
石川県立田鶴浜高等学校	11月8日	30	30
石川県立田鶴浜高等学校	12月25日	39	39
日本航空大学	6月6日	29	29
〃	6月13日	30	30
計 18 回		462	461

## 救急員養成講習(13時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	6月24日～6月25日	14人	14人
〃	8月26日～8月27日	16	16
〃	9月9日～9月10日	4	4
〃	11月25日～11月26日	19	19
警察学校	10月6日、10日、11日	26	26
私立鵬学園高等学校	9月26日～12月5日	29	23
日本航空大学	6月7日～6月8日	26	26
〃	6月14日～6月15日	33	33
金沢学院大学附属高等学校	9月8日～12月5日	94	93
金沢福祉専門学校	12月6日～12月8日	14	14
金沢赤十字病院	10月23日～10月25日	5	5
石川県立田鶴浜高等学校	11月8日～11月10日	30	29
石川県立田鶴浜高等学校	12月25日～12月27日	39	39
計 13 回		349	341

【幼児安全法】

支援員養成講習(14時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
日本赤十字社石川県支部	11月10日、11月11日	6人	6人
計 1回		6	6

講習種別	開催数	受講者数	合格者数
基礎講習	18	462人	461人
養成講習	17	374	366
計	35	836	827

【健康生活支援講習】

支援員養成講習(12時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
石川県支部	7月1日、8日、9日	10人	10人
石川県支部	12月9日、10日、23日	3	3
計 2回		13	13

【水上安全法】

救助員Ⅰ養成(21時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
石川県支部	12月2日、9日、16日	6人	6人
計 1回		6	6

救助員Ⅱ養成(14時間)

主催団体名	講習期間	受講者数	合格者数
		人	人
計 0回		0	0

(3) 開催地別講習会開催状況

地区・分区	養成講習						短期講習				
	救急法 (基礎)	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法	救急法	健康生 活支 援講 習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法
金 沢 市	11 <sup>回</sup>	7 <sup>回</sup>	2 <sup>回</sup>	1 <sup>回</sup>			213 <sup>回</sup>	3 <sup>回</sup>	36 <sup>回</sup>	3 <sup>回</sup>	
七 尾 市	4	3					10		1		
小 松 市	1	1					16				
輪 島 市	2	2					1				
珠 洲 市							2				
加 賀 市							5	1			
羽 咋 市							6	2			
か ほ く 市									3		
白 山 市					1		30		11		
能 美 市							2				
野々市市							14		7	1	
川 北 町											
津 幡 町									2		
内 灘 町							1				
志 賀 町							1				
宝達志水町							1				
中能登町							1				
穴 水 町							1		1		
能 登 町							3				
オンライン 講習							41	2	8		
合 計	18	13	2	1	1	0	348	8	69	4	0

(4) 救急法等指導員在籍状況

単位…人（令和6年3月末現在）

	赤十字職員			ボランティア	合計
	支部職員	病院職員	センター職員		
救急法	7 <sup>人</sup>	11 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	110 <sup>人</sup>	129 <sup>人</sup>
健康生活支援講習	1	7	0	14	22
幼児安全法	6	4	1	26	37
水上安全法	0	0	0	12	12
雪上安全法	0	0	0	16	16
計	14	22	2	178	216

(5) 指導員の研修等

指導員の資質向上を図るため、次のとおり研修会を開催するとともに、本社等が主催する研修会にも参加した。

部門別	研修会・講習会		
	支部	本社	ブロック
救急法	2 <sup>回</sup>	1 <sup>回</sup>	0 <sup>回</sup>
水上安全法	0	0	0
健康生活支援講習	1	1	0
幼児安全法	1	1	0
雪上安全法	0	0	0
計	4	3	0

## 10 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、人道・博愛の精神に基づき、各分野で赤十字活動を行うことを目的として結成されたボランティアの組織である。

赤十字奉仕団には、市町等の地域ごとに結成されている「地域奉仕団」、青年や学生で組織されている「青年奉仕団」、特殊技術を持つ人たちが中心となって組織された「特殊奉仕団」がある。

石川県支部に登録されている赤十字奉仕団は、次のとおりである。

(令和6年3月末現在)

種 別	団 数	団 員 数
地 域 赤 十 字 奉 仕 団	51 団	2,552 人
青 年 赤 十 字 奉 仕 団	3	159
特 殊 赤 十 字 奉 仕 団	6	277
計	60	2,988

[赤十字奉仕団の主な活動内容]

- ① 会員増強に関する奉仕活動  
社資募集
- ② 災害救護活動  
救援物資の輸送・配分、被災者等への炊き出し、応急救護の支援等
- ③ 青少年赤十字にかかわる活動  
研修会の援助
- ④ 献血にかかわる活動  
献血推進キャンペーンの実施、献血者の受付及び案内
- ⑤ 救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法、幼児安全法に関する活動  
各種講習会での指導
- ⑥ 赤十字病院での活動  
身の回りの世話、話し相手、患者の受付と案内、衛生材料づくり
- ⑦ 障害者にかかわる活動  
朗読サービス、点訳、手話通訳、通学・通勤の介助送迎
- ⑧ 社会福祉施設での活動  
授乳・食事の介助、行事の手伝い、話し相手
- ⑨ 国際支援に関する奉仕活動

## (1) 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和6年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
十一屋校下赤十字奉仕団	村田保夫	S49.12.8	27 <sup>人</sup>	5 <sup>人</sup>	32 <sup>人</sup>
馬場赤十字奉仕団	塩原吉成	S50.6.10	31	1	32
大徳赤十字奉仕団	田村政博	S51.7.16	46	26	72
三馬赤十字奉仕団	若松恵美子	S51.7.17	19	33	52
小立野赤十字奉仕団	高野健三	S51.8.17	35	35	70
金石赤十字奉仕団	番匠博和	S51.10.12	43	3	46
輪島市赤十字奉仕団	下善裕	S52.6.13	3	18	21
瓢箪町地区赤十字奉仕団	檜物鋭一	S52.7.20	38	3	41
新豎赤十字奉仕団	田中晋介	S52.11.8	1	3	4
森山赤十字奉仕団	谷村憲治	S53.7.8	3	8	11
富樫赤十字奉仕団	竹村裕樹	S53.8.1	3	19	22
小松市赤十字奉仕団	村西卓	S54.6.19	1	375	376
安原地区赤十字奉仕団	中橋功雄	S54.7.19	1	12	13
中村町校下赤十字奉仕団	増本志郎	S55.3.9	31	1	32
戸板赤十字奉仕団	吉田和夫	S55.9.1	38	42	80
野町赤十字奉仕団	宮本哲一	S55.10.16	38	2	40
鞍月赤十字奉仕団	野村靖之	S55.11.17	24	8	32
押野赤十字奉仕団	竹田良雄	S56.5.30	16	39	55
新神田校下赤十字奉仕団	山岸正光	S57.7.10	3	0	3
長坂台校下赤十字奉仕団	土倉克己	S58.7.18	29	10	39
栗崎校下赤十字奉仕団	玉作秀二	S58.9.9	16	25	41
額校下赤十字奉仕団	吉本外明	S59.10.18	3	19	22
西南部校下赤十字奉仕団	中川俊一	S59.11.13	17	18	35
三和校下赤十字奉仕団	橋本律子	S60.3.23	0	43	43
七尾市赤十字奉仕団	芋塚隆彦	S61.9.29	4	9	13
加賀市赤十字奉仕団	宮崎信子	S62.3.3	0	23	23
西校下赤十字奉仕団	池田恵子	S62.10.28	0	19	19
内灘町赤十字奉仕団	亀田武彦	S63.11.10	2	21	23
米丸校下赤十字奉仕団	山下正美	H1.5.15	32	4	36
米泉校下赤十字奉仕団	東昭男	H2.7.9	12	10	22
松任ふれあい赤十字奉仕団	谷健一	H5.9.2	7	49	56
白山市美川まつぼっくり赤十字奉仕団	新千鶴子	H5.10.8	0	51	51
四十万校下赤十字奉仕団	大学正治	H6.6.20	13	16	29
崎浦地区赤十字奉仕団	野村真理子	H6.6.27	43	5	48
扇台校下赤十字奉仕団	渡辺俊晃	H6.11.27	9	22	31
金沢川北赤十字奉仕団	木谷博一	H8.7.6	13	20	33
志賀町赤十字奉仕団	山本洋子	H8.8.20	6	155	161
能美市赤十字奉仕団	田中策次郎	H9.5.24	4	15	19
津幡町赤十字奉仕団	小林良樹	H11.8.20	7	23	30
小坂校下赤十字奉仕団	西川義博	H13.7.22	50	16	66
弥生校下赤十字奉仕団	石田善松	H14.4.27	7	17	24
宝達志水町赤十字奉仕団	柏崎三代治	H15.3.17	23	78	101
かほく市赤十字奉仕団	北村邦子	H16.5.28	9	242	251
菊川赤十字奉仕団	寺本良之	H16.7.24	12	24	36
能登町赤十字奉仕団	的場清一	H17.5.24	2	91	93
白山ろく赤十字奉仕団	河野泰治	H18.4.17	3	24	27
鶴来ふれあい赤十字奉仕団	金丸和弘	H18.4.24	3	13	16
穴水町赤十字奉仕団	大島秀文	H21.11.5	9	11	20
珠洲市赤十字奉仕団	松原了啓	H21.12.11	4	23	27
羽咋市赤十字奉仕団	柳澤豊志	H22.8.26	47	19	66
夕日寺校下赤十字奉仕団	中川一成	R1.11.2	16	1	17
計	51団		803	1749	2552

## (2) 青年赤十字奉仕団の結成状況

(令和6年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県青年赤十字奉仕団	山田 彩千乃	S38. 4. 1	13人	20人	33人
金沢星稜大学学生赤十字奉仕団	大久保 百 茄	H11. 4. 13	12	40	52
北陸大学学生赤十字奉仕団	齊 藤 卓 己	H30. 4. 13	19	55	74
計	3団		44	115	159

## (3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況

(令和6年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県赤十字安全法奉仕団	村 中 洋	S36. 8. 26	45人	62人	107人
石川県無線赤十字奉仕団	古 屋 栄 彦	S42. 3. 20	31	3	34
石川県赤十字雪上救護奉仕団	永 井 敏 昌	S53. 12. 2	10	2	12
石川県赤十字救護奉仕団	荒 木 覚	S59. 6. 28	13	3	16
青少年赤十字賛助奉仕団	平 田 和 伸	H15. 5. 2	9	8	17
石川県柔道整備師会赤十字奉仕団	二ッ谷 剛 彦	H22. 4. 25	67	1	68
計	6団		197	80	277

## (4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催

ア 総 会 令和5年4月20日(木) 石川県赤十字血液センター 出席者 37名

イ 役員会

第1回 令和5年4月20日(木) 石川県赤十字血液センター

ウ 機関紙発行

「赤十字奉仕団だより」 令和5年9月30日 第45号発刊

令和6年3月31日 第46号発刊

## (5) 赤十字ボランティア研修会の開催

ア 基礎研修会

令和5年10月8日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 31名

イ 委員長・副委員長研修

令和5年11月25日(土) 石川県赤十字血液センター 参加者 25名

## (6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動

ア 「赤十字のつどい」の開催

「世界の子どもを救おう！」をテーマとして各地区奉仕団が共同でチャリティーバザーを実施する予定であったが、5月5日に発生した令和5年奥能登地震を受け、収益金の使用用途を令和5年奥能登地震災害義援金に変更した。

・加賀地区 チャリティーバザー

令和5年7月2日(日)道の駅めぐみ白山

・金沢地区 チャリティーバザー

令和5年6月4日(日)アルプラザ金沢店

・能登地区 チャリティーバザー

令和5年6月11日(日)内灘町文化会館

バザー収益金で集まった721,238円が日本赤十字社石川県支部へ寄託され、令和5年奥能登地震災害義援金として活用した。

イ 肢体不自由児水泳教室に対する協力

石川県肢体不自由児協会が実施した身体障害児水泳療育訓練において、赤十字安全法奉仕団の団員が指導にあたった。

ウ 金沢百万石まつりに対する協力

百万石行列において、特殊奉仕団4団(安全法、無線、青少年賛助、柔道整復師会)や、青年奉仕団(青年、金沢星稜大学、北陸大学)のほか、青少年赤十字加盟高等学校6校(県立工業、翠星、辰巳丘、松任、北陵、羽咋)の合計117名が協力し、観客や参加者に対する救護や、迷子の搜索活動にあたった。

エ 金沢マラソン2023に対する協力

金沢マラソンにおいて、特殊奉仕団1団(安全法)や、青年奉仕団3団(青年、星稜大学、北陸大学)、4奉仕団78名がAED隊として救護活動にあたった。



ボランティア基礎研修



金沢マラソン2023

(7) 奉仕団員による災害復旧支援活動

令和5年5月5日能登地方で発生した地震被害に対して、安全法奉仕団・無線奉仕団が、珠洲市で被災家屋の片づけ、救援物資の搬送、珠洲市社会福祉協議会ボランティアセンター運営補助などに参加した。

7月7日からの大雨の影響により津幡町で河川の氾濫などによる被害が発生。安全法奉仕団・津幡町奉仕団が津幡町社会福祉協議会ボランティアセンター運営に参加し、8月までセンターの運営等に従事した。また、安全法奉仕団が被災家屋の泥の撤去や災害廃棄物運搬等の復旧支援活動を行った。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、発災直後から安全法奉仕団、無線奉仕団、青年奉仕団が奥能登地区への救援物資の輸送を行い、柔道整復師会奉仕団は2次避難所での避難者のケガの手当や搬送を行った。無線奉仕団や各地域奉仕は2次避難所の設営補助や2次避難所での炊き出し、被災地での炊き出しを行った。学生奉仕団は、避難所での足湯やハンドケアなどのリラクゼーションルームの運営補助や被災地での炊き出しを行った。



津幡町の被災住宅での泥の撤去



令和5年奥能登地震 珠洲市でボランティアセンターの運営を行う安全法奉仕団員



令和6年能登半島地震  
救援物資を運ぶ奉仕団員



令和6年能登半島地震  
学生奉仕団による炊き出しの様子



令和6年能登半島地震  
避難所でのリラクゼーションルームの様子



令和6年能登半島地震  
避難所での柔道整復師による施術の様子

(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』

支部では令和4年度から、地域住民の健康増進を目的とした事業『ACTION！無病息災プロジェクト』を実施している。令和4年4月からはかほく市奉仕団、令和5年4月からは鶴来ふれあい奉仕団をモデル奉仕団として、遊休農地を活用した野菜づくりや、ノルディック・ウォーキング教室の開催などに取り組んでいる。



ノルディック（かほく）



野菜づくり（鶴来）

# 11 青少年赤十字

青少年赤十字活動は、児童・生徒が赤十字の精神である人道・博愛の心を理解体得し、世界の平和と人類の福祉向上に貢献出来るよう、日常の学校生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的とした活動である。

「健康・安全」「奉仕」「交際親善・理解」の3つを実践目標に掲げ、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」という取り組みを行っている。

## (1) 青少年赤十字の加盟校(園)の状況

区 分	令和5年度(園・校)	令和4年度(園・校)	増減(園・校)
幼稚園・保育園・こども園	2	2	0
小 学 校	102	98	4
中 学 校	42	41	1
高等学校・特別支援学校	33	33	0
計	179	174	5

幼稚園・保育園・こども園			小 学 校			中 学 校			高等学校・特別支援学校		
番号	市町名	園 名	番号	市町名	学 校 名	番号	市町名	学 校 名	番号	市町名	学 校 名
1	七尾市	七尾みなどこども園	1	加賀市	片山津	1	小松市	丸松	1	小松市	小松立峰
2	〃	東みなどこども園	2	〃	湖北	2	〃	松陽	2	〃	小松市明
			3	〃	作見	3	〃	松陽	3	〃	小松大
			4	〃	庄	4	白山市	松陽	4	〃	小松
			5	小松市	稚安	5	〃	松北	5	能美市	寺井
			6	〃	安丸	6	〃	光笠	6	白山市	松翠
			7	〃	荒屋	7	〃	笠野	7	〃	任星
			8	〃	苗代	8	〃	笠野	8	金沢市	金沢錦丘
			9	〃	蓮代	9	〃	鶴鳥	9	〃	金沢泉
			10	〃	寺江	10	〃	鳥白	10	〃	金沢二伏
			11	〃	今	11	〃	白	11	〃	金沢辰見
			12	〃	申	12	金沢市	城南	12	〃	金沢辰巴
			13	〃	日符	13	〃	兼六	13	〃	工業院
			14	〃	末津	14	〃	和鳴	14	〃	金沢北業
			15	〃	栗津	15	〃	高岡	15	〃	金沢向陽
			16	〃	木場	16	〃	長田	16	〃	金沢学院
			17	〃	野田	17	〃	浅野	17	〃	星稜
			18	〃	津谷	18	〃	芝原	18	〃	ろ
			19	〃	海	19	〃	西原	19	〃	いしかわ特別支援
			20	〃	中	20	〃	犀生	20	〃	医王特別支援
			21	〃	東	21	〃	小森	21	〃	明和特別支援
			22	〃	能	22	〃	高	22	津幡町	津幡
			23	〃	美	23	〃	尾	23	内灘町	内灘
			24	白山市	松任	24	〃	緑	24	羽咋市	羽咋
			25	〃	旭南	25	〃	北	25	七尾市	七尾尾
			26	〃	松南	26	〃	大	26	〃	七尾東雲
			27	〃	湊	27	〃	額	27	〃	田鶴浜
			28	〃	朝日	28	〃	清	28	〃	田鶴学
			29	〃	明光	29	〃	内	29	〃	七尾特別支援学校
			30	〃	陽	30	〃	金	30	輪島市	輪島
			31	〃	越	31	かほく市	ノ	31	能登町	能登
			32	〃	嶺	32	津幡町	津	32	珠洲市	飯田
			33	〃	白	33	羽咋市	羽	33	穴水町	穴水
			34	野々市市	御園	34	〃	羽			
			35	〃	富	35	宝達志水町	宝			
			36	〃	富野	36	志賀町	富			
			37	金沢市	泉野	37	七尾市	七			
			38	〃	一	38	〃	七			
			39	〃	立	39	〃	能			
			40	〃	野	40	〃	中			
			41	〃	野	41	中能登町	中			
			42	〃	成	42	能登町	能			
			43	〃	成						
			44	〃	坂						
			45	〃	野						
			46	〃	成						
			47	〃	成						
			48	〃	成						



(3) メンバーの活動状況

ア 会議等

(ア) 県高校JRC協議会

第1回 令和5年4月22日(土) 金沢伏見高等学校 14校52人参加

第2回 令和5年9月9日(土) 金沢辰巳丘高等学校 10校65人参加

(イ) 第44回石川県高等学校JRC大会

令和5年6月2日(金) いしかわ子ども交流センター 13校172人参加

(ウ) 第22回石川県高等学校文化連盟JRC部赤十字救急法競技大会

令和5年9月16日(土) 金沢錦丘高等学校 9校60人参加

(4) 国際理解・親善活動

ア 海外たすけあいプロジェクト 街頭募金活動

令和5年12月10日(日) 金沢市内 9校66人参加

(5) ボランティア活動

1円玉募金

児童館や福祉施設の訪問

清掃活動 等

(6) 普及活動

ア 高文連JRC部への活動助成

イ 活動紹介機関紙「石川青少年赤十字ニュース」の配布(県内全学校〈小・中・高・特別支援学校〉)

(7) 指導用教材資料の貸し出し

防災教育教材、紙芝居、ネパールの水がめ、地雷模型、地雷関係パネル、松葉杖、盲人用杖、アイマスク、義足など



JRC大会



海外たすけあいプロジェクト

## 12 国 際 活 動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と緊密な連携のもとに、現在も世界の各地で起きている武力紛争や地震等の自然災害による犠牲者等の救援のため、物資や資金の援助及び開発協力要員の派遣を行っている。

石川県支部では、日本赤十字社の活動を支援するとともに、第3ブロック支部共同事業として、「アジア・大洋州給水・衛生キット支援(H22年～)」、「シリア難民支援事業(H28～)」及び「東アフリカ地域3カ国保健強化事業(H30～)」に対して援助を行った。

また、被災者等に対する義援金の受付を行うほか、赤十字奉仕団員による「NHK海外たすけあい」街頭募金活動を実施し、本社へ送金した。

さらに、令和3年10月に長崎県から高校生平和大使を招いて七尾市の能登演劇堂で開催された「愛と平和の祭典2021in NANA O」をきっかけとして始めた、愛と平和のワンコイン募金を実施し、国際支援事業や災害救護活動、青少年赤十字活動等に活用した。

### 日赤第3ブロック支部 共同事業内容

1. レバノン プライマリーヘルス・スケールアップ事業  
レバノン赤十字が全国9州の一次医療サービス向上を目的に貧困層が多く医療ニーズが高い19のPHC(プライマリーヘルス・センター：予防や基本的な治療を行う施設)の修繕やサービスの改善する事業を支援する。
2. 東アフリカ地域3カ国(ブルンジ・他2カ国)保健強化事業  
自然災害や紛争、テロが頻発する上、保健指標の低さや貧困率の高さ等、さまざまな課題を抱えた同地域において、住民主体で地域保健を強化する活動を支援する。
3. アジア・大洋州給水・衛生キット支援  
洪水やサイクロンなどの災害が増加している同国において、迅速に給水・衛生活動が展開できるよう、国際赤十字・赤新月社連盟が開発した「給水・衛生キット」を配備し、スタッフの研修を実施する。

### 日赤第3ブロック支部 共同事業実績額

年度	支 援 内 容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)	年度	支 援 内 容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)
H30	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R3	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000
	東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,000,000
R1	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R4	シリア難民支援事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域2カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000
R2	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R5	レバノンプライマリーヘルス・スケールアップ事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域2カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000

## 13 医 療 事 業

令和5年度の医療界は、新型コロナウイルスの感染症法における分類が2類から5類に引き下げられた令和5年5月8日以降、ポストコロナへの対策が試される1年となったが、依然として当院を含む多くの医療機関において、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前の令和元年度と比較し、入院、外来とも患者の減少が続いている。

このような状況のなか、近年は厳しい内容が続く診療報酬改定ではあるが、当院においては入院患者数や診療単価の増加に向けた取り組みとして、令和4年度の改定で新たに設けられた紹介患者の外来を基本とする「紹介受診重点医療機関」の指定を令和5年8月に受け、12月からの運用に向けては、コロナ禍において開催を見送ってきた「地域医療連携懇話会」や「オープン・クリニカルカンファレンス」を再開し、近隣開業医との連携強化を図り、積極的な紹介患者の受入れとともに、かかりつけ医への逆紹介等を推進することで、救急患者の受入れ体制を強化し手術件数の増加を図ることで入院患者数や診療単価の向上を目指す方向へと舵を切ったところである。

しかし、その矢先となる令和6年1月1日に「令和6年能登半島地震」が発生し、当院においても発災直後から職員が参集し災害対策本部を立ち上げ、以降、赤十字の使命である被災地への医療救護班等の派遣や被災地域の病院等からの患者受け入れなど全職員が一丸となって取り組むこととなった。

結果、当院においては、1月9日から2月4日までの間、紹介受診重点医療機関として注力してきた紹介患者の受入れをはじめ、予定手術や予定入院のほか、一般外来、健診センターなど多くの部門で受入れ制限をかけざるを得ない状況となった。

これらの制限は、令和5年度の収支にも影響を与え、患者数は前年度と比較し入院、外来ともに増加したものの、予定手術の制限等により入院単価が減少し、また、健診受診者の減少もあり医業収益は前年比0.3%の微増にとどまった一方、医業費用については、不安定な世界情勢に伴う光熱費の高騰に加え、診療材料や給食材料等の原材料価格上昇等により前年比4.9%と大きく増加し、令和5年度は赤字決算となった。

当院においては、令和6年度以降、改めて「紹介受診重点医療機関」として地域医療や福祉施設等との連携に注力し、救急患者の受入れ体制を強化することで、手術件数や入院患者の増加を図るとともに、診療報酬改定に対する適切な対応などにより、医業収益の改善に向け職員一丸となって取り組んでいきたい。

### 令和5年度の主な事業

1. 地域医療との連携強化
  - (1) オープン・クリニカルカンファレンス  
〔6/16(金)、11/17(金) 当院及びwebによるハイブリッド開催〕
  - (2) 開放病床運営委員会・地域医療連携懇話会〔10/25(水) 金沢東急ホテル〕
2. 診療機能の向上及び維持
  - (1) MRIの更新
  - (2) 超音波診断装置2台(腹部)(循環器)の更新
3. 医療機器整備  
超音波内視鏡、高周波手術装置、自動浸透圧分析装置、他14点

令和5年度における患者数等は次のとおりである。

(1) 患者数

科別	年度	令和5年度		令和4年度		対前年度増減	
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
入院		64,324人	175.7人	62,563人	171.4人	1,761人	4.3人
(新入院患者数)		3,640	9.9	3,590	9.8	50	0.1
外来		117,679	482.3	116,321	478.7	1,358	3.6

(2) 診療科別患者数

(入院)

科別	年度	令和5年度		令和4年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		33,360人	91.1人	31,216人	85.5人	2,144人	5.6人
外科		5,471	14.9	5,459	15.0	12	△ 0.0
整形外科		10,084	27.6	8,840	24.2	1,244	3.3
脳外科		1,707	4.7	2,373	6.5	△ 666	△ 1.8
眼科		470	1.3	508	1.4	△ 38	△ 0.1
産婦人科		147	0.4	209	0.6	△ 62	△ 0.2
小児科		238	0.7	146	0.4	92	0.3
皮膚科		679	1.9	862	2.4	△ 183	△ 0.5
放射線科		—	—	—	—	—	—
麻酔科		15	0.0	—	—	15	0.0
リハビリ科		11,360	31.0	12,323	33.8	△ 963	△ 2.7
泌尿器科		793	2.2	627	1.7	166	0.4
計		64,324	175.7	62,563	171.4	1,761	4.3

(外来)

科別	年度	令和5年度		令和4年度		対前年度増減	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科		50,558人	207.2人	49,979人	205.7人	579人	1.5人
外科		8,369	34.3	8,672	35.7	△ 303	△ 1.4
整形外科		6,684	34.6	7,130	36.6	△ 446	△ 2.0
脳外科		1,803	7.4	2,005	8.3	△ 202	△ 0.9
眼科		5,089	20.9	5,328	21.9	△ 239	△ 1.0
産婦人科		4,513	18.5	4,734	19.5	△ 221	△ 1.0
小児科		2,848	11.7	2,841	11.7	7	0.0
皮膚科		4,976	20.4	5,330	21.9	△ 354	△ 1.5
放射線科		194	0.8	139	0.6	55	0.2
麻酔科		477	2.0	408	1.7	69	0.3
リハビリ科		24,739	101.4	22,416	92.2	2,323	9.2
泌尿器科		7,429	30.4	7,339	30.2	90	0.2
計		117,679	482.3	116,321	478.7	1,358	3.6

(3) 診療単価等

科別	年度	令和5年度	令和4年度	対前年度増減	
				金額	率
患者1人1日 当たりの収入	入院	46,809円	47,944円	△ 1,135円	△ 2.4%
	外来	13,900円	13,863円	37円	0.3%
病床利用率		72.3%	70.5%	—	—
平均在院日数		16.7日	16.5日	—	—
再掲(急性期病床)		11.1日	12.2日	—	—

## 14 医療・保健等の社会事業

金沢赤十字病院においては、病院経営の重要な部分として、医療・保健衛生等の社会事業を積極的に展開しているが、令和5年度における活動状況は、次表のとおりである。

活動の種別	延対象者数	活動の種別	延対象者数
糖尿病教室	67 <sup>人</sup>	すこやか検診	962 <sup>人</sup>
栄養指導	1,229	一般健診	3,123
健康講座	0	成人病健診	4,860
訪問看護	2,723	日帰りドック	797
訪問リハビリ	1,453	宿泊ドック	31

## 15 血液事業

令和5年度の血液事業の運営にあたっては、令和2年から続いている新型コロナウイルス感染症の位置付けが令和5年5月8日から「5類感染症」となり、改善することが期待されたが、令和6年1月1日に発災した能登半島地震により、特に能登方面において移動採血車の運行が困難な地域があり、緊急な対応を余儀なく行った。しかしながら国、県、市町、医療関係及び献血推進団体等の各関係団体の迅速な支援により、前年度並みの献血者を確保することができた。災害時の効果的な献身体制の確立と共に、感染対策を徹底しつつ献血者の確保を行うことで、安全な輸血用血液製剤の安定供給を行い、効率的な事業運営に努めるため、次の事項を重点として取り組んだ。

### (1) 安全な血液製剤の安定供給

#### ① 需給管理の充実

医療機関との連携や情報共有の充実に努め、血液製剤の需給予測の精度向上を図るとともに、需要に応じた適切な採血を推進した。

また、医療現場のニーズに対応できる質の高い需給管理を行うため、職員の情報・意識共有の仕組みづくりや教育を推進した。

#### ② 安全性の確保

血液製剤を保管する冷凍・冷蔵設備や運搬車両等設備機器の適切かつ確実な管理運用に努め、故障・緊急時の対応や安全運行等に関する教育訓練を徹底し、常に安全で高品質な血液製剤を供給した。

#### ③ 血液製剤の適正使用の推進

石川県合同輸血療法委員会の活動や石川センターでの研修を通じて、医療機関への情報提供や技術指導の充実に努め、適正使用の一層の推進を図った。

#### ④ 災害時における体制の充実

発災した能登半島地震に対して輸血用血液製剤を安定的に供給できる体制の

確保、人員対応、施設等の利用調整を行った。発生直後には、東海北陸ブロック内全血液センターにおいて報告会を行い、交通インフラの確保等手順の再確認、訓練の成果や改善点を確認した。東海北陸ブロック地域内において高い確率で発生が危惧されている東海・東南海地震等の大震災に対しても、危機管理ガイドライン等に基づき、ブロック血液センター及び管内地域センターと連携し、合同で災害対応訓練を実施した。また、石川県防災総合訓練には日本赤十字社石川県支部、金沢赤十字病院等と連携のうえ参加し緊急時の対応に備えた。

## (2) 献血者の安定的確保

### ① 普及啓発活動

- ア 献血の必要性を広く周知し、献血協力のきっかけとなるよう、様々な年代層をターゲットとした各種献血キャンペーンを展開した。
- イ 若年層にアピールし、血液事業に共感と興味を持ってもらえる情報誌等印刷物の発行に努めた。
- ウ ホームページの一層の活用を図り、求められる情報がリアルタイムでスムーズかつ正確に閲覧できるよう、管理の徹底や内容の充実に努めた。

### ② 若年層献血者確保対策

- ア 県や教育委員会の協力のもと、主に高校生や大学生を対象として、献血の基礎知識を伝え献血への協力意欲を醸成するため、献血セミナーを年間13回開催した。
- イ 医療や福祉を学ぶ高校、看護学校、専門学校の学生を対象に、授業の中で献血の必要性や血液事業への理解、研修等への参加を呼び掛けた。
- ウ 移動採血の渉外活動において、事業主や献血担当者に対し若年層献血者確保の重要性を丁寧に説明し、協力を求め、若年層従業員への呼びかけ拡大、強化に努めた。
- エ 若年層のニーズに沿った献血記念品の選定や、若年層限定献血キャンペーンなど、若年層が献血に関心を寄せるきっかけとなるような企画や広報を積極的に展開した。
- オ 石川県学生献血推進委員会と協働することにより、同委員会の一層の活性化を図り、取り組みの一つである同世代への献血推進活動をサポートした。
- カ 大学・短期大学等の教職員と学生献血推進ボランティア、石川県赤十字血液センター職員で構成する石川県学生献血推進連絡会による学生献血推進ボランティアの活動への支援を強化した。
- キ ブロック血液センターや管内地域センターと情報・意見交換を行い、先進的な事例を検証して取り入れ、効果的な若年層献血者確保対策を実践した。

### ③ 献血登録者の拡充

- ア 継続的な献血協力を推進するために、メール及びLINEで献血者にこまめな依頼要請や情報提供を行うとともに、「ラブラッド」会員(アプリ・Web)新規会員の確保に努め、年度末会員数が24,300人を超えた。
- イ 血小板製剤の県内自給を目指し、医療機関の要望に確実に応えられるよう、血小板成分献血の要請応諾者拡充に努めた。また、HLA型の登録を推進し、高品質な血小板製剤の供給に努めた。

ウ 献血ルームをはじめ、移動採血でも約96%の会場で献血の事前予約枠を設け、献血者の利便性を向上するとともに安定的かつ継続的な血液の確保に努めた。

④ 献血者の安全確保

ア 献血時におけるインフォームドコンセントを徹底し、献血者の健康状態に十分配慮した採血に努めた。

イ V V R等採血副作用の予防に細心の注意を払うとともに、副作用が発生した場合の措置について教育訓練を徹底した。

ウ 採血課職員の日本輸血・細胞治療学会が認定する「アフエレーシスナース(成分採血認定看護師)」の認定取得に積極的に取り組んだ。

⑤ 献血者への健康管理サービス

低ヘモグロビン等により献血できなかった献血申込者への栄養士による健康相談やB型肝炎及びC型肝炎ウイルス検査陽性献血者への健康相談を実施し、献血不適格者への健康指導に努めた。

⑥ 災害時における献血の確保

ア 出張所、移動採血車の展開

災害発生地域においても、出張所や移動採血車を迅速に展開し、献血募集を開始した。

イ 緊急献血キャンペーンの実施

緊急献血キャンペーンを実施し、血液供給を促進した。その際、マスメディアやSNSを活用して、有用性を広く周知した。

ウ 事前の血液確保

常時、十分な血液在庫の確保に努める。また、他の地域からの補助や輸送体制をシュミレーションし整えておく。

エ 医療機関との連携強化

献血組織と医療機関で災害発生時の血液需要や供給状況を共有し、協力して効果的な対応を行った。

(3) 効率的な事業運営

① 400mL献血の推進

医療機関のニーズに応じた供給を行うため、全血献血は400mLを基本とし、相対的に使用頻度が少ない200mL献血を抑制したところ、全血献血に占める400mL献血の割合が約95%となった。

② 移動採血1稼働あたりの採血効率の向上

献血実施企業団体やライオンズクラブ等の献血協力団体との連携を強化し、1稼働あたりの採血数を増やし、必要な血液量を確保するなど採血効率の向上に努めた。

③ 献血ルームの事業改善

ア 献血ルームの全血献血の向上に取り組むとともに、血液製剤の需給状況を踏まえた適切な成分献血者確保に努めた。

- イ 献血推進・予約システム(CMS)を活用した予約献血を推進し、献血者の利便性向上に努めた
- ウ 血小板製剤の献血後3日運用を促進するため、曜日別の適切な採血数を設定し、計画に沿った採血数の確保に努めた。

④ 成分献血の効率化

- ア 血小板成分採血において、分割血小板採取の比率向上を図り、採取率57.1%確保した。
- イ 循環血液量に応じた最大限の血漿確保を推進し、血漿成分献血における1本あたりの平均採取血漿量は576.6mL、血小板(血小板+血漿)採血における1本あたりの原料血漿採取量は、分割製造用212.1mL、非分割製造用326.0mLを確保した。

⑤ 供給体制の効率化

臨時配送便を削減するための医療機関との協議を進め、定期便率の向上を図った。

また、輸血用血液製剤の受発注における過誤発生の防止を目的に、インターネットで受発注するWEB発注システムの導入を推進し、現在受発注の8割以上がWEB発注システムを利用したものとなった。

(4) 持続可能な血液事業(事業の活性化)の推進

① 人材育成・人事交流

職員の日本赤十字社石川県支部及びブロック血液センターとの職員交流及び統一的な研修体制の整備に努め、職員の能力向上を促進した。

② 研修教育機能の充実

ブロックセンター石川製造所と連携し、血液事業全体を研修できる血液センターとして、研修医の受け入れ及び衛生看護科の学生については研修を実施することにより、血液事業の新しい担い手や安全な輸血医療の担い手を引き続き確保・拡充した。

③ 経営改善の取組と事業運営の活性化

血液事業特別会計の継続的な財政運営を図るため、職員一丸となって「カイゼン」活動に積極的に取り組むとともに、事業評価結果に基づき事業の質的向上及び事業の効率化を推進し、事業運営の活性化を図った。

(5) 造血幹細胞事業の推進

石川県や県内ボランティア団体(いしかわ骨髄バンク推進・はとの会)と連携して、骨髄バンク登録の支援に努め、登録者の増加を図った。

(6) 献血・血液製剤供給状況等(令和5年度)

① 市町別献血状況(令和5年度)

市町別	献血目標				献血者数実績				達成率
	200mL	400mL	成分	合計	200mL	400mL	成分	合計	
金沢市	112人	5,700人	—人	5,812人	246人	5,867人	—人	6,113人	105.2%
七尾市	13	550	—	563	26	694	—	720	127.9
小松市	50	2,470	—	2,520	115	2,593	—	2,708	107.5
輪島市	9	500	—	509	22	376	—	398	78.2
珠洲市	5	235	—	240	7	101	—	108	45.0
加賀市	23	950	—	973	26	895	—	921	94.7
羽咋市	8	320	—	328	1	299	—	300	91.5
かほく市	13	490	—	503	18	446	—	464	92.2
白山市	85	3,215	—	3,300	94	3,143	—	3,237	98.1
能美市	15	550	—	565	21	685	—	706	125.0
野々市市	44	1,100	—	1,144	81	1,075	—	1,156	101.0
川北町	4	150	—	154	4	177	—	181	117.5
津幡町	10	450	—	460	36	459	—	495	107.6
内灘町	2	90	—	92	1	96	—	97	105.4
志賀町	16	570	—	586	15	511	—	526	89.8
宝達志水町	3	60	—	63	1	41	—	42	66.7
中能登町	4	230	—	234	3	215	—	218	93.2
穴水町	3	130	—	133	8	125	—	133	100.0
能登町	4	150	—	154	6	90	—	96	62.3
小計	423	17,910	—	18,333	731	17,888	—	18,619	101.6
くらつき	40	4,100	7,450	11,590	251	4,350	8,165	12,766	110.1
ル・キューブ	327	3,900	7,690	11,917	443	4,078	8,439	12,960	108.8
合計	790	25,910	15,140	41,840	1,425	26,316	16,604	44,345	106.0
令和4年度合計	810	25,690	15,790	42,290	1,409	26,716	16,495	44,620	105.5

② 献血者の内訳(令和5年度)

【種類別・性別】

種類区分	性別	献血者数
200mL	男性	221人
	女性	1,204
	計	1,425
400mL	男性	20,309
	女性	6,007
	計	26,316
成分	男性	11,880
	女性	4,724
	計	16,604
合計		44,345

【年齢別】

年齢区分	献血者数
16～19歳	2,207人
20～29歳	5,952
30～39歳	5,878
40～49歳	10,665
50～59歳	13,952
60～69歳	5,691
合計	44,345

【職業別】

職業区分	献血者数
公務員	6,549人
会社員	26,235
学生	4,095
その他	7,466
合計	44,345

【性別】

区分	男性	女性	合計
献血者数	32,410人	11,935人	44,345人

【献血登録者】 ラブラット会員含む

	A型	O型	B型	AB型	不明	合計
Rh(+)型	25,925 (25)	21,478 (45)	15,700 (21)	7,180 (8)		70,283 (99)
Rh(-)型	261 (3)	255 (5)	188 (2)	93 (0)		797 (10)
合計	26,186 (28)	21,733 (50)	15,888 (23)	7,273 (8)	1,652	72,732 (109)

( )内は、まれ血の再掲

③ 血液製剤供給状況(令和5年度)

令和5年度中の血液製剤供給本数は、200mL献血換算数で142,747本、その内訳は次のとおりである。

製剤名	供給数	供給数							計	構成比	
		1単位	2単位	4単位	5単位	10単位	15単位	20単位			
全血製剤	照射人全血液-LR	本 0	本 0	本 -	本 -	本 -	本 -	本 -	本 0	% 0.0	
	全血製剤計	0	0	-	-	-	-	-	0	0.0	
成分製剤	赤血球製剤	照射赤血球液-LR	1,396	21,932	-	-	-	-	-	45,260	31.7
		照射洗浄赤血球-LR	6	10	-	-	-	-	-	26	0.0
		照射解凍赤血球-LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0.0
		照射合成血-LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0.0
	計	1,402	21,942	-	-	-	-	-	45,286	31.7	
血漿製剤	新鮮凍結血漿-LR	179	6,772	342	-	-	-	-	15,091	10.6	
	計	179	6,772	342	-	-	-	-	15,091	10.6	
血小板製剤	照射濃厚血小板-LR	0	0	-	41	8,008	21	0	80,600	56.5	
	照射濃厚血小板HLA-LR	-	-	-	-	173	0	0	1,730	1.2	
	照射洗浄血小板-LR	-	-	-	-	4	-	-	40	0.0	
	計	0	0	-	41	8,185	21	0	82,370	57.7	
血液成分製剤計		1,581	28,714	342	41	8,185	21	0	142,747	100.0	
合計(単位)		1,581	57,428	1,368	205	81,850	315	0	142,747	100.0	
令和4年度(単位)		1,476	56,556	1,444	365	72,530	465	0	132,836		

④ 原料血漿確保量(令和5年度)

原料血漿確保目標量 11,355 L      確保量 12,012 L

(令和4年度目標量 11,187 L)

# 16 決 算 状 況

## (1) 令和5年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書

### 歳 入

科 目		予 算 現 額			決 算 額	収入未済額	予算現額に 比し増減
		当初予算額	補正予算額	計			
社資 収入	一般社資収入	円 146,000,000	円 30,499,000	円 176,499,000	円 181,882,875	円 0	円 5,383,875
	法人社資収入	12,000,000	4,000,000	16,000,000	23,168,621	0	7,168,621
計		158,000,000	34,499,000	192,499,000	205,051,496	0	12,552,496
委託金等収入		0	0	0	10,333	0	10,333
補助金及び交付金収入		7,446,000	0	7,446,000	3,789,348	0	△ 3,656,652
災害義援金預り金収入		0	34,316,626,000	34,316,626,000	34,316,625,645	0	△ 355
繰入金収入		0	23,372,000	23,372,000	24,141,204	0	769,204
資産収入		0	0	0	0	0	0
雑収入		4,849,000	0	4,849,000	5,254,074	0	405,074
前年度繰越金		24,470,000	0	24,470,000	37,172,620	0	12,702,620
合 計		194,765,000	34,374,497,000	34,569,262,000	34,592,044,720	0	22,782,720

### 歳 出

科 目		予 算 現 額				決 算 額	翌年度 繰越額	不用額
		当初予算額	補正予算額	流用増減額	計			
災害救護事業費		円 18,519,000	円 14,776,218,000	円 0	円 14,794,737,000	円 14,792,310,899	円 0	円 2,426,101
社会活動費		52,103,000	0	0	52,103,000	46,935,011	0	5,167,989
国際活動費		1,100,000	0	771,000	1,871,000	1,870,058	0	942
指定事業地方振興費		0	0	771,000	771,000	770,058	0	942
地区分区交付金支出		19,968,000	0	0	19,968,000	14,923,000	0	5,045,000
社業振興費		24,859,000	0	0	24,859,000	22,985,017	0	1,873,983
基盤整備交付金・補助金支出		0	0	50,000	50,000	50,000	0	0
積立金支出		12,701,000	19,591,336,000	0	19,604,037,000	19,603,893,288	0	143,712
総務管理費		33,683,000	0	0	33,683,000	30,361,003	0	3,321,997
資産取得及び資産管理費		5,487,000	0	0	5,487,000	5,051,361	0	435,639
本社送納金支出		23,700,000	6,943,000	0	30,643,000	30,642,215	0	785
予備費		2,645,000	0	△1,592,000	1,053,000	0	0	1,053,000
合 計		194,765,000	34,374,497,000	0	34,569,262,000	34,549,791,910	0	19,470,090

歳入歳出差引額 42,252,810円 翌年度繰越金

## (2) 令和5年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

金沢赤十字病院

科 目		決 算 額
医 業 収 益	入 院 診 療 収 益	3,010,942,195 円
	室 料 差 額 収 益	78,713,430
	外 来 診 療 収 益	1,635,715,279
	保 健 予 防 活 動 収 益	156,726,345
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	0
	そ の 他 の 医 業 収 益	48,337,815
	保 険 等 査 定 減	△ 9,390,161
	小 計	4,921,044,903
医 業 費 用	材 料 費	1,174,569,988
	給 与 費	3,075,149,677
	委 託 費	436,488,688
	設 備 関 係 費	627,672,075
	研 究 研 修 費	9,957,097
	経 費	296,263,314
	小 計	5,620,100,839
医 療 事 業 損 失		△ 699,055,936
医 業 外 収 益		542,253,870
医 業 外 費 用		7,699,632
医 業 外 利 益		534,554,238
医 療 社 会 事 業 収 益		38,531
医 療 奉 仕 費 用		101,096,965
医 療 社 会 事 業 損 失		△ 101,058,434
付 帯 事 業 収 益		26,961,396
付 帯 事 業 費 用		46,249,212
付 帯 事 業 損 失		△ 19,287,816
特 別 利 益		0
特 別 損 失		119,899
特 別 損 失		△ 119,899
法 人 税 等		0
収 益 的 収 入 合 計		5,490,298,700
収 益 的 支 出 合 計		5,775,266,547
当 期 純 損 失		△ 284,967,847

## 17 日本赤十字社石川県支部役員名簿

(令和6年4月23日現在)

役職名	氏名	当初就任年月日	選任回数	至任期	備考
支部長	馳 浩	令和 4. 3. 27	1	令和 7. 3. 26	石川県知事
副支部長	村山 卓	令和 4. 3. 15	1	令和 7. 3. 14	石川県市長会長
副支部長	矢田 富郎	令和元. 6. 18	2	令和 7. 6. 17	石川県町長会長
副支部長	袖森 直弘	令和 5. 4. 1	1	令和 8. 3. 31	石川県健康福祉部長
評議員	※荒木 龍平	平成19. 2. 14	6	令和 7. 2. 13	石川県日赤紺綬有功会 会長
評議員	※吉田 國男	平成22. 2. 14	5	同上	財団法人石川県社会保険協会 会長
評議員	※明石 寛治	令和 4. 2. 14	1	同上	株式会社明石合銅 相談役
評議員	※田上 好道	平成26. 2. 14	4	同上	石川県商工会連合会 会長
評議員	※能木場由紀子	平成20. 4. 23	6	同上	石川県婦人団体協議会 会長
評議員	※寺本 良之	令和 3. 4. 24	2	同上	赤十字奉仕団石川県支部委員会 委員長
評議員	前 千代子	令和 4. 4. 1	1	同上	金沢市校下婦人会連絡協議会 副会長
評議員	澤 飯 英 樹	令和 4. 4. 14	1	同上	金沢市消防団連合会 会長
評議員	高野 善一	令和元. 12. 3	2	同上	金沢市民生委員児童委員協議会 会長
評議員	高柳 晃一	令和 5. 6. 29	1	同上	金沢市社会福祉協議会 会長
評議員	林 充 男	令和 3. 5. 31	2	同上	金沢市シルバー人材センター 理事長
評議員	山田 啓之	令和 4. 6. 22	1	同上	金沢市副市長
評議員	山腰 茂樹	令和 6. 4. 23	1	同上	金沢市公民館連合会 副会長
評議員	中川 一成	令和 2. 4. 1	2	同上	金沢市町会連合会 会長
評議員	浦上 光太郎	令和 6. 4. 1	1	同上	金沢市老人連合会会長
評議員	茶谷 義隆	令和 2. 11. 14	2	同上	七尾市長
評議員	宮橋 勝栄	令和 3. 4. 13	2	同上	小松市長
評議員	村西 卓	令和 2. 4. 28	2	同上	小松市町内会連合会 会長
評議員	坂口 茂	令和 4. 3. 19	1	同上	輪島市長
評議員	泉谷 満寿裕	平成18. 6. 12	7	同上	珠洲市長
評議員	宮元 陸	平成25. 10. 30	4	同上	加賀市長
評議員	岸 博一	令和 2. 11. 1	2	同上	羽咋市長
評議員	油野 和一郎	平成16. 4. 12	7	同上	かほく市長
評議員	田村 敏和	令和 5. 4. 23	1	同上	白山市長
評議員	松本 祐紀	令和 5. 4. 27	1	同上	白山市町会連合会 会長
評議員	井出 敏朗	平成29. 2. 27	3	同上	能美市長
評議員	栗 貴章	平成19. 6. 10	6	同上	野々市市長
評議員	前 哲雄	平成23. 4. 27	5	同上	川北町長
評議員	川口 克則	平成31. 2. 14	2	同上	内灘町長
評議員	稲岡 健太郎	令和 5. 12. 24	1	同上	志賀町長
評議員	宮下 為幸	令和 3. 4. 3	2	同上	中能登町長
評議員	吉村 光輝	令和 4. 2. 14	1	同上	穴水町長
監査委員	岸 弘市	平成12. 2. 21	9	令和 9. 2. 20	産業カウンセラー
監査委員	高澤 良英	平成27. 2. 21	4	同上	七尾商工会議所 常任顧問
監査委員	武田 純	令和 5. 11. 1	1	令和 8. 10. 31	株式会社武田工業所 取締役顧問
本社代議員	田谷 正	令和 4. 2. 14	1	令和 7. 2. 13	医療法人社団田谷会 理事長
本社代議員	中村 健一	令和 4. 2. 14	1	同上	石川県鉄工機電協会 会長
本社代議員	西村 徹	平成28. 2. 14	3	同上	元小松市長
本社理事	田谷 正	令和 5. 4. 1	1	令和 8. 3. 31	医療法人社団田谷会 理事長

※印は支部長選出評議員

(順不同、敬称略)

役職名	氏名	当初就任年月日	備考
支部参与	徳田 博	令和 4. 4. 1	石川県副知事
支部参与	西垣 淳子	令和 4. 7. 1	石川県副知事
支部参与	塗師 亜紀子	令和 5. 4. 1	石川県健康福祉部次長
支部参与	蟹由 宗臣	令和 5. 6. 1	石川県健康福祉部厚生政策課長
支部参与	関 涉	令和 6. 4. 1	石川県健康福祉部医療対策課長
支部参与	吉田 恭平	令和 6. 4. 1	石川県健康福祉部薬事衛生課長
支部参与	寶達 典久	令和 4. 2. 14	宝達志水町長
支部参与	大森 凡世	令和 4. 2. 14	能登町長
支部参与	東 利裕	令和 6. 4. 1	金沢市町会連合会事務局長
支部参与	普赤 清幸	令和 元. 7. 2	金沢商工会議所専務理事

(順不同・敬称略)

支 部 長	1 名	本 社 代 議 員	3 名
副 支 部 長	3 名	本 社 理 事	1 名 (代議員兼任)
評 議 員	32 名	支 部 参 与	10 名
監 査 委 員	3 名	計	52 名 (兼任を除く)

